

令和2年度 空き家実態調査

1 調査概要

(1) 調査の目的

「空き家等対策の推進に関する特別措置法」により国が示すガイドラインを基に、糸魚川市内における適切な管理が行われていない空き家が、周辺環境に悪影響を及ぼすことを未然に防ぐ対策を検討・実施すること及び、利活用可能な家屋であるかを判断するための基礎資料を作成するため。

(2) 調査場所:糸魚川市 全域

(3) 受注業者:株式会社ナカノアイシステム糸魚川事業所

(4) 履行期間:令和2年6月4日～令和3年1月 29 日

2 調査結果

現地で外観調査を行った全 970 棟のうち、良好～老朽が 615 件、「判定外(更地または活用済)」は 168 件、「危険(全壊、半壊含む)」は 187 件であった。

(1) 地域別不良度

全地域では「再生可能」の割合が 27.3%と一番多く、地域別では能生地域の「危険」が最も高く 33%となっている。

1-1 地域別不良度一覧表(件数)

地域名	良好	利用可能	再生可能	老朽	危険	判定外	合計
糸魚川地域	62	36	160	93	79	97	527
能生地域	15	9	57	48	83	41	253
青海地域	39	14	48	34	25	30	190
合計(件数)	116	59	265	175	187	168	970
割合(%)	12.0	6.1	27.3	18.0	19.3	17.3	100.0

1-2 地域別不良度(図)

